

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成20年4月10日(2008.4.10)

【公開番号】特開2001-355737(P2001-355737A)

【公開日】平成13年12月26日(2001.12.26)

【出願番号】特願2001-51648(P2001-51648)

【国際特許分類】

F 1 6 J 15/16 (2006.01)

F 0 1 D 11/08 (2006.01)

F 0 2 C 7/28 (2006.01)

F 1 6 J 15/22 (2006.01)

【F I】

F 1 6 J 15/16 B

F 0 1 D 11/08

F 0 2 C 7/28 Z

F 1 6 J 15/22

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月22日(2008.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 保持体（42）と、

複数のたわみ支持ワイヤ（58）によって前記保持体（42）から移動自在に吊り下げられた担持体（56）と、

前記担持体（56）に固定された複数の剛毛（59）と
からなるブラシシル（34）。

【請求項 2】 前記担持体（56）と前記保持体（42）の一方に形成したスロット（68）と、前記担持体（56）と前記保持体（42）の他方に形成したタング（78）とをさらに含み、前記タング（78）は前記スロット（68）に受入れられている、請求項 1 記載のブラシシル（34）。

【請求項 3】 前記担持体（56）はそれに形成したフランジ（62）を有し、
前記フランジ（62）に形成したスロット（68）と、前記保持体（42）に形成したタング（78）とをさらに含み、前記タング（78）は前記スロット（68）に受入れられている請求項 1 記載のブラシシル（34）。

【請求項 4】 静止部材（36）と、軸線（12）を中心として回転する回転部材（38）との間に位置する漏流路を密封するブラシシル（34）であって、

前記軸線（12）の周りに同軸的に配置されそして前記静止部材（36）に取付けられた環状保持体（42）と、

前記保持体（42）内に配置されそして複数のたわみ支持ワイヤ（58）によって前記保持体（42）から移動自在に吊り下げられた環状担持体（56）と、

前記担持体（56）に固定されそして前記回転部材（38）と密封係合をなす複数の剛毛（59）と
からなるブラシシル（34）。

【請求項 5】 前記保持体（42）は、前記静止部材（36）に形成したシールポケット（44）内に配置されている、請求項 4 記載のブラシシル（34）。

【請求項 6】 前記保持体（４２）は内径を画成しそして前記担持体（５６）は前記内径より小さな外径を画成して前記保持体（４２）と前記担持体（５６）との間に間隙を設けるようになっている、請求項 4 記載のブラシシール（３４）。

【請求項 7】 前記担持体（５６）はそれに形成したフランジ（６２）を有し、前記フランジ（６２）は前記軸線（１２）に対して軸方向に延在する請求項 4 記載のブラシシール（３４）。

【請求項 8】 各支持ワイヤ（５８）の第 1 端が、前記保持体（４２）に形成した複数の穴（７４）の対応する一つ内に支承され、そして各支持ワイヤ（５８）の第 2 端が、前記担持体（５６）に形成した複数の穴（６６）の対応する一つ内に支承されている、請求項 1 又は 4 記載のブラシシール（３４）。

【請求項 9】 前記保持体（４２）に形成した前記穴（７４）と、前記担持体（５６）に形成した前記穴（６６）にテ - パが付いている、請求項 8 記載のブラシシール（３４）。

【請求項 10】 前記支持ワイヤ（５８）は前記軸線（１２）に対して軸方向に配向されている請求項 4 記載のブラシシール（３４）。